

令和4年10月1日

学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園 京都福祉専門学校 学校関係者評価委員会では下記のとおり「学校関係者評価」を実施したので、これを報告いたします。

開催日時 令和4年9月27日（火）15:00～16:30

出席者	委員長	京都福祉専門学校	校長	丸岡晃嗣
	委員	北宇治地域包括支援センター	センター長	森下良亮
	委員	学校法人南京都学園	企画室次長	中本敦史
	委員	京都福祉専門学校	副校長・専門学校部 留学生担当課長	平尾克英
	委員	京都福祉専門学校	事務長	西岡さおり
	委員	京都福祉専門学校	教務・進路指導主任	美谷島正行

校長以下6名出席

欠席：山本 満佐子（京都府レクリエーション協会 副会長）

大塚 浩也（京都動物専門学校 副校長）

評価項目	説明及び評価・意見	対応等
1. 学校運営	<p>(説明)</p> <p>世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大も収束までには至らないが少し感染者も減少傾向にある。引き続き基本的な手洗い・手指消毒・マスクの着用・物品消毒・検温の重要性や3つの密「密閉・密集・密接」を避けることを徹底した。</p> <p>(意見・評価)</p> <p>介護の現場では感染症対策を充分にとっており、施設に入所されているご利用者は勿論のこと、ご家族までもが安心できる対策を行っているところである。家族でさえもリモート面会が実施されている中で、本校の介護実習受け入れは大変ありがたい状況である。</p>	<p>文科省の学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」を基に本校のマニュアルを見直した。</p> <p>一人の感染者を出すことなく、また、クラスターを作らないために日々の生活においても細心の注意と対策を行うよう指導している。</p> <p>特に福祉分野は高齢者や障害者といった持病を持たれている可能性が高い業界のため、介護実習（施設実習）においても事前から健康管理、感染症対策をしっかりと行っている。</p>

<p>2. 教育活動 (カリキュラム編成)</p>	<p>(説明) 本校の特色である教科(京の文化)(福祉セラピーAB)について、時代に即した授業内容の工夫も検討している。</p> <p>(意見・評価) 特色ある教科の充実は生徒にとって非常に意味のあることと考える。また、校外での施設見学や体験授業も充実していけばよいのでは。</p>	<p>本校の特色ある授業実施に向け、現状に合う時間確保のため、カリキュラムの一部見直しを行った。</p> <p>領域「こころとからだのしくみ」教科：障害の理解C(視覚障害・聴覚障害)において、通年60時数を半期30時数に変更し、より充実した授業が行えるよう対応した。</p>
<p>3. 学修成果 (教育指導) (資格)</p>	<p>(説明) 日々の学修成果は各授業内で定期的に小テストを実施し、年2回の試験を実施。 また、国家試験に向けての対策授業においては定期的な校内試験を実施し、外部試験では年に数回の模擬試験を受け、着実に実力をつけていけるよう指導している。 資格については、介護福祉士を主として関連資格も多く設定している。</p> <p>(意見・評価) 教科毎に小テストを実施しているのは良いと思う。国家試験の合格率が高いのは日々の積み重ねの結果だと思う。</p>	<p>各教科授業では、シラバスに則り進行しているが、過去の国家試験問題等を取り入れながら行っている。さらに国家試験対策授業の実施や2年次では年内で授業を終わらせ、体調及び気持ちも1月末の国家試験に焦点を合わせている。</p> <p>関連資格については、京の文化やセラピーを取り入れた特色ある授業を継続して展開していく。就職後、オールラウンドで活躍できる介護福祉士としての資質を高めていく。</p>
<p>4. 生徒支援 (施設実習) (介護福祉士修学支援制度)</p>	<p>(説明) 2年間で10週間の施設実習においては区分Ⅰ-①②、区分Ⅱ-①、区分Ⅱ-②と3回に亘って実施。個々の生徒に合った施設への配置を考えている。</p> <p>介護福祉士修学資金制度については、京都府の次年度予算に基づいて実行されるため、慎重に取り扱う必要がある。また外国人留学生にも対応しているため有効に利用したいと考えている。</p> <p>(意見・評価) 介護実習では途中でリタイアす</p>	<p>段階ごとにレベルアップしていく中で、生徒にとって記録を書くことが重労働である。しかし、施設の指導者からのアドバイスや教員巡回訪問、帰校日において生徒の気持ちを十分に把握しながら担当教員が綿密な指導を行っている。</p> <p>介護福祉士修学資金は生徒及び学費負担者にとって非常に有利な奨学金制度であるため、今後も有効利用していきたい。 また、外国人留学生においても活用していきたいと考えている。</p> <p>生徒のモチベーションを向上さ</p>

	<p>る生徒はいるのでしょうか。京都福祉の生徒は学内での生活支援技術がしっかりとできているため質が良いと聞いております。</p>	<p>せ当初目標達成に向け、実習配置を行っている。</p> <p>一つひとつ着実に進めて行けるよう個別面談等を取り入れ指導している。</p>
<p>5. 教育環境 (施設設備) (ICT 活用)</p>	<p>(説明)</p> <p>開校以来 28 年目を迎え介護福祉士養成のために設立された施設であり、特に老朽化もなく学習しやすい環境が維持できている。介護実習室・入浴実習室の広さが十分に確保されており、また 3 階の講堂ではレクリエーションや実習報告会・地域連携イベント等さまざまな学校行事で利用している。</p> <p>ICT については昨今の様々な分野において活用されつつあり、介護の現場ではロボットを利用している施設も増加傾向にある。人とロボットとの協働・調和として ICT を組み合わせた効率の良い安心安全な介護を目指し、可能な限り時代のニーズに合わせた教育を行っていくことも視野にいれている。</p> <p>(意見・評価)</p> <p>校舎は落ち着いた雰囲気であり、生徒が学習し易い環境が整っている。</p>	<p>今後も充実した施設設備を有効に使用していく。空調及び電気関係の新規導入を実施。一部、更新されていない個所もあるが、段階を経て実行していく。</p> <p>また、単年度の事業計画や中長期計画にも組み込み、常に安定した教育ができるよう心掛けている。</p> <p>現在は一般的なパワーポイントを使用しているが、今後は ICT 教育を取り入れていくのも良いと考えている。教室でのビッグモニターによる授業や ZOOM 授業の併用も視野に入れている。</p> <p>しかし、ICT のみに頼るのではなく、それぞれの教員が授業の中で使い分け、教員の個性的・特徴的な授業も大切と考える。いずれも生徒が理解し易い授業をするための工夫が求められる。</p>
<p>6. 生徒の受入れ募集</p>	<p>(説明)</p> <p>超高齢社会を迎えている日本ではあるが、介護分野の生徒受入れ募集は非常に難しい状況である。介護の現場に質の高い人材を送り出すためには養成校で学習し、さまざまな知識を習得させることが求められている。</p> <p>今後も専門職の必要性和介護の魅力を発信し定員充足率を上げ、多くの人材を現場に送り出すことを目指している。</p> <p>(意見・評価)</p> <p>全国的にみても介護の養成校は非常に生徒確保が難しいと聞いている。人生 100 年時代、引き続き日本の介護人材確保のために介護の魅力や遣り甲斐を広報していた</p>	<p>現在、2025 年問題が問われている昨今ではあるが、介護の質と量を合わせて確保しなければならないという非常に難しいことが起こっている。</p> <p>介護人材が 55 万人不足。しかも、後期高齢者の内、4 人に 1 人が認知症という病気になるとも言われている。このことにより、質を確保しながら量を求めることが重要で、量のみを求めれば日本の介護は衰退していくと考える。</p> <p>地道な活動ではあるがさまざまな施策で介護の魅力を発進し、専修学校専門課程の基本的な基準を崩すことなく質の高い生徒の養成を前提に募集活動を行っていく。</p>

	<p>だきたい。 また、養成校として外国人留学生の受け入れも不可欠と思われる。</p>	
<p>7. 社会貢献・地域貢献</p>	<p>(説明)</p> <p>現在、「宇治けんこう楽学広場」では地域の方を学校に招き、健康いきいき体操やレクリエーションなどを実施している。 今年度は新型コロナウイルス感染症も少しは落ち着いたため回数を減らして実施した。</p> <p>また、「宇治地域福祉研究所(学校 de カフェ)」では、今地域が抱えている諸問題をテーマに専門家を招き、勉強会を実施し参加した人が互いにお茶を飲みながら話せる場を設け、少しでも心が和み、日常生活に希望が持てるよう地域と連携しながら学校開放を行っている。</p> <p>(意見・評価)</p> <p>京都福祉専門学校は厚生労働省認可の介護福祉士養成校であるとともに、文部科学省認可の「職業実践専門課程」いわゆる産学連携を実践し、地域とも交流があり、まさに地域密着型の専修学校である。</p>	<p>超高齢化・核家族化・老々介護・独居老人というような日本の社会では改善しなければならない問題が山積している中で、介護の養成校が果たすべき役割をしっかりと認識し、基本路線から外れることなく着実に進んでいくことが社会貢献に繋がるものと確信している。</p> <p>地域のことを知り、地域の変化を見据え、少しでも連携することで社会が求める教育が出来るよう日々努力を積み重ねる。</p> <p>地域においても新型コロナウイルス感染症対策は行われているが、イベント等も少しずつ実施されるようになった。</p> <p>5 類扱いとなった新型コロナウイルスと共存社会とはいえ、ワクチン接種や治療薬により、早い終息を望んでいるところである。</p>

以 上